

実績報告 別記第2号様式 別紙2の
テーマごとに作成してください。

別紙3
様式例 活動報告書

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	1 2 3 3 4 1 6
施設名（園名等）	木内鳩の家幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

砂・水・泥

<テーマの設定理由>

砂場環境のほか、園庭全体が土で、水を使った泥遊びが盛んな特色を活かし、砂・水・泥をテーマとして設定する。泥は日常生活で触れる身近な素材であり、日頃から興味関心を持っている姿が見られる。園庭で見つけた土の固さや色、感触の違いや砂と土の違い、掘った時に出てくる土など素材の特性や水を加えた変化について、さらに興味を深めていくため。

2. 活動スケジュール

4歳児年中あか組29名・もも組28名 毎月外遊びで砂遊びを行う。
10時ころから11時くらいまでの50分程度。泥団子づくりを園庭のいろいろな場所で設定していった。土探しから始めて、ピカピカの泥団子が完成するまで試行錯誤しながら進めていく。

3. 探究活動の実践 <活動の内容>

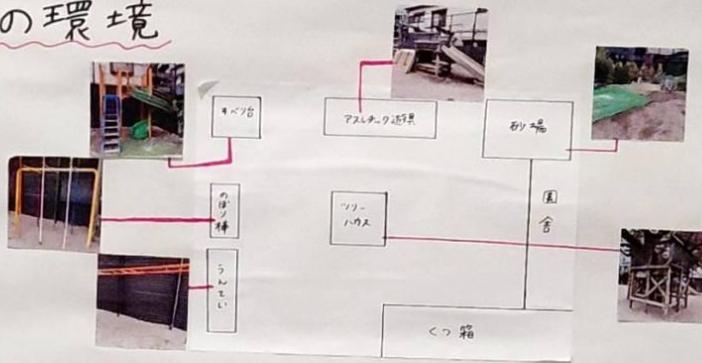
とうきょうすくわく プログラム

木内鳩の家 幼稚園

テーマ：石・砂・水・泥

対象クラス：もも組(年中) 28名(男児11名、女児17名)

園庭の環境



どんなクラス？

- ・土や砂が好きで、よく触れ合っている
- ・虫が好きの子が多く、虫探しで盛り上がりしている
- ・保育者が展開する遊びに興味を示し、参加する子が多い

はじめに...

年中組(4-5歳児 11月)では、砂を食べ物に見立てたり、水を使って川を作ったりして自然物に関わる姿がみられます。その中で砂や泥を丸めた泥団子作りで熱中している子ども達もいます。泥を丸めて砂をかけて...大きいお団子を作る子や、小さいお団子を沢山作る子もあり、各々で目的やその時々の楽しさを見つけ作っています。その中で「ツヤツヤのお団子を作りたい!」という声があがったため、その様子を追い、子ども達の探究心が育まれていく過程をまとめました。

10月下旬

楽しくお団子を作る子ども達。各々のこだわりや工夫が見られます。



泥団子を作るための泥作りからスタート！カッパ(写真右上)に水を入れ、石臼に水をかけて泥を作ります。団子を作りやすいように、水の量を調整していました。



「さらさら砂はマットの下にある」と子ども達自らで見出し、足マット(写真左側)を動かしてから砂を集め、お団子にかけています。どろどろだったお団子がさらさらになりました。



足マットの下の砂をふるい(写真下)にかけて更にさらさら(粒子を糸田かく)している子もいました。糸田かくなると砂は赤い皿にためていました。



さらさらで丸いお団子は沢山できましたが、中々ツヤツヤのお団子はできませんでした。気に入ったお団子を取っておきたいという子もいたのを、箱にまとめ置いておくことにしました。

11月上旬

何かで磨いたらツヤツヤになるかも...?という声があがったため、園庭を散策し、探索しました。



「葉っぱとかどうかな?」という子がいたので、葉っぱを探しに行きました。ちょうど緑の葉っぱと枯れた葉っぱが落ちていたので2つとも使うことに。「どちらの方が磨きやすいかな?」と考えながら磨き、「緑の葉っぱの方が表面がツヤツヤしているから磨きやすい」と発見しましたが、目標とするツヤツヤお団子にはなりませんでした。



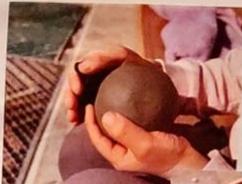
「ストッキングも(磨くのには)いいかも」という声があがり、保育者がストッキングを用意しました。ストッキングで磨いてみると、サラサラにはなりましたが中々ツヤツヤと磨きあはしません。「こすり方がよくないのかな」「(こする)かがつよいのかな」と子ども達なりに考えていました。

11月中旬

中々ツヤツヤのお団子が作れない子ども達。みどり組(年長児)にお団子作りの名人がいると聞き、作り方を教えてもらうことにしました。



みどり組の子に早速教えてもらうもも組の子ども達。「まずは泥を沢山作る」ということで石少場に移動し、水分を沢山含んだ泥を用意しました。「丸める時に色々な方向から力を入れないとぺちゃんこになる」とアドバイスをもらい、丁寧に丸めていました。みどり組の子に質問をしながら慎重に作る姿がありました。



お団子ができたら磨く作業です。「ストックインク」だとツヤツヤにならなかった」というもも組の子に「ストックの前にならなから石少で磨くんだよ」とみどり組の子が教えてくれました。みどり組おすめの石少スポット(アスチック前)に移動し、石少で磨き続けました。

仕上げはストックインク。以前のもも組の子ども達の考えと同じでした。石少をつけながら磨く子ども達。「力を入れすぎると壊れるから優しく磨くんだよ」とみどり組の子が声をかけてくれ、その通りに慎重に磨いていました。そして磨き続けるうちにだんだんとお団子に光が？ついに目標としていたツヤツヤのお団子を完成させることができました。完成したお団子を嬉しそうに友達や保育者に見せて回る姿がありました。

まとめ

最初の数日は「大きい団子を作る」「沢山お団子を作る」「お団子を食へ物に見立てて遊ぶ」と遊んでいたが、「ツヤツヤのお団子を作る」という共通の目標ができたことにより、相談し合ったり、互に行金言葉誤りをする姿が見られました。そして、年長児との交流から作り方を学んだことで目標としていたツヤツヤのお団子作りの経験に繋がりました。完成したお団子を保育者や友達に嬉しそうに話しており、作り方を他児に教える姿も見られました。初めはお団子作りに興味のなかに子にも徐々に作りの活発さが広がっていき、子どもの探究心から生まれた長期的な遊びの中で、周りの刺激を受けて遊びが展開していく様子が見られました。

4. 振り返り <振り返りによって得た先生の気づき>

その後は…



ひかひかのおだんごが
作れるようになった子たちのその後…

砂場のカップを使って
カップケーキを作るときに、
おだんごを作るときの技法を
活かしていました。
カップケーキを持つ反対の
手にはストッキングが！
ツヤツヤのカップケーキ作りも
楽しんでいるようです。